

## 歴史研修会 河内馬飼いの里

2月5日、今冬一番の寒さにも負けず22名が参加して、歴史文化クラブ研修会を行いました。今回は四条畷市立歴史民俗資料館を訪問し特別展示「大和王権を支えた馬飼いの里」の見学と野島館長の解説を聞き、教育委員会村上主任の案内で四条畷市内の遺跡を巡るウォークなど、歴史のロマンに浸る一日となりました。

5世紀大陸から初めて馬が持ち込まれて以来、河内湖の北岸（今の四条畷市、寝屋川市）では渡来人が牧で馬を飼育していました。後の持統天皇となる鸕野讃良皇女はこの地で育てられたとも言われます。

野島館長は、我々のために用意されたパワーポイントで、讃良の里に広がった馬の牧場や渡来人の営み、馬の祭祀跡や馬を運んだ古代船、馬に不可欠な塩を造る土器、韓式系土器などの出土品に基づいて説明されました。また、この地で水田を営んでいた人々と、渡来人の集団とが平和に共存していたとの説明があり、この里で育った鸕野讃良皇女（後の持統天皇）が牧場で馬に親しむ風景も想像したことでした。

展示室には、縄文時代の石棒、弥生時代の人骨、水田の跡、4世紀の忍岡古墳、埴輪、古代の準構造船など、この地域の歴史を物語る興味深いものが沢山あって、皆も熱心に見学しました。



四条畷市立歴史民俗資料館 最後列左端が野島館長

午後の部は、市教育委員会社会教育課の村上始主任のご案内で、四条畷市の縄文・弥生から近世に至る数々の遺跡を巡りました。

まず、資料館の前の東高野街道沿いに「墓の堂古墳」（全長6.2m）。現在は共同墓地になっていますが、十三仏の石碑があります。この地には十三仏の石碑が数多くみられます。

次ぎは、清滝街道（大和と北河内を結ぶ古道）沿いの中野正法寺。境内にある十三仏石碑、六字名号の石碑と石橋は、一つの石棺を再利用したことが確認されています。

JR忍ヶ丘駅付近の数多くの遺跡を巡った後、忍岡の頂上にある忍陵神社に到着。この神社建物の下に、古墳時代前期の全長8.7mの前方後円墳があり、この地を治めていた王の墓とのことでした。

最後のポイントは、有名な馬の全身骨格の出土した「葎屋北遺跡」（なわて水みらいセンター）。ここで歴史ウォークが終了しました。



葎屋北遺跡 馬一体の骨格が出土した場所

今回の研修会では、四条畷市一帯には河内馬飼いの里に止まらず、縄文・弥生・古墳時代にまたがる数多くの遺跡があることを学びました。特別のご配慮を頂いた歴史民俗資料館と教育委員会の皆様に深く感謝したいと思います。また企画を進められた川口達夫会員にもお礼申し上げます。

(坂東久平)